

放送日： 平成 20 年 11 月 17 日

タイトル： ピロリ菌について

担当者： 医師 田崎 和仁

皆さんこんにちは。公立甲賀病院内科田崎と申します。

皆さんはピロリ菌という名前をどこかで聞かれたことがありますか？

これは正式にはヘリコバクターピロリという名前で、胃の中にいる菌のことです。胃の中は強い酸性のため普通の菌は死んでしまいますが、この菌は自分の周りの胃酸を中和することで胃に住み着くことができます。この菌がいることで胃潰瘍や十二指腸潰瘍、慢性胃炎や胃癌などの発生につながるものが最近わかってきています。ではどれぐらいの人の胃にいる菌なのでしょう？実は年代で感染率は全く異なります。20代では2割程度ですが、年と共に感染率が高くなり、60歳以上の人では7割以上となります。

これはこの菌が食べ物や水など口から入るのですが、戦後の衛生状態の改善に伴い減ってきたものと考えられています。この菌がいるかどうかはどうやって調べるのでしょうか？方法はいくつかあります。胃カメラを使って胃の粘膜を採取して調べたり、吐いた息で調べる方法などがあります。菌がいるとわかった場合どうしたらよいのでしょうか？実は必ずしも悪さをする訳ではなく、全員が退治をする必要はありません。今のところ胃潰瘍か十二指腸潰瘍の人にだけ飲み薬による1週間の治療を行なっています。この治療により菌がいなくなると潰瘍の再発率が下がる効果があります。治療効果は90%の人に期待できますが、十分な効果を得るためには自己判断で内服を中止せず、しっかり飲みきることが重要です。また薬で逆に下痢などの副作用が出る場合もあります。薬のほかにヨーグルトなど食品でピロリ菌に効くと言われているものがいくつかありますが、多少菌が減ることはあっても完全にいなくなることはないようです。ピロリ菌にはまだまだわかっていないこともあり、今も研究途上ですが胃の調子が思わしくない方はもしかするとピロリ菌が影響しているかもしれません。一度内科を受診するようにして下さい。